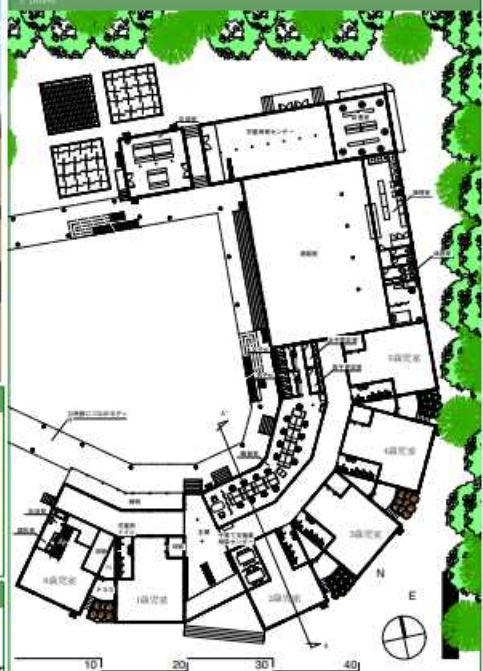


「循環」こども園

このこども園は、日本人の暮らし・見守り・育育的交際の場として、自然の中に入りこみ、遊び、学び、成長を促す施設です。木材が持つ美しい色も、自然環境との調和に貢献しています。木材が持つ美しい色も、自然環境との調和に貢献しています。木材が持つ美しい色も、自然環境との調和に貢献しています。



コンセプト

現代日本の森林状況、環境がばたいた。しかし、天然木の供給が減少し、木工種の森林資源が増加している。この変化の一方で、職人の減少や匠づくりの失われる懸念がある。職人に職育を伝え、人脈を繋ぎたい。職育が継承され、木材が持つ美しい色も、自然環境との調和に貢献している。しかし、木材の輸入品に頼り、実地で職育を伝えることが困難となり、森林資源の減少が懸念されている。木材の輸入品に頼り、実地で職育を伝えることが困難となり、森林資源の減少が懸念されている。

概要

本計画は、自然環境の中の住宅地にあるこども園である。建築上、様々な工夫が凝らされた。その一つが、木材の活用である。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。

教育空間の活用

- 教育空間の活用
- 新たなアプローチの探求
- 職人の職育の伝達

構造

構造の特色は、木材の活用による自然環境との調和である。また、木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。

各階断面



内観



内閣形と寸法案

内閣形と寸法案の図解。木材の活用による自然環境との調和を図る。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。

高さ	7100
幅	11112.75
奥行	7075

構造の特色は、木材の活用による自然環境との調和である。また、木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。

森林の循環と市に伝達する

本こども園では、木材を通じて職育の場から森林への循環を図り、日本の森林資源の循環を図る。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。木材の活用は、自然環境との調和に貢献している。



アソビバ~木育の拠点~

「大人も子供も楽しめるアソビバ」
この施設は「木育」がテーマである。一見子供向けの教育と捉えられやすいが木育とは木と触れ合い、木に学び、木と生きることを指す。つまり、木育の対象は子供のみなさん。大人も含まれる。誰もが木を身近に感じることで、関心を持って様々な知識を得ることができる施設を目指す。さらに、人材育成や環境保全の役割も担っていくことで木育のモデルとなることを期待する。

「木育」



ウッドチップコーナー
工場で上回る量や品質した道具をウッドチップに変わらば、子どもたちが遊び場について知ってもらう機会もある。



木育工房
子どもも大人も器具や木工作を体験できる。また、小中学校と連携して講義を開き、遊び場から秋田県の豊かな自然を知り、木についての知識を定着を図る。

設計趣意

秋田県は国内有数の木材の生産地にも関わらず、由利本荘市にはその素晴らしさを学ぶ機会が少ないと感じた。この原因として人々が森から離れて暮らすようになったことが考えられる。かつて人々は、木材を使って家や家具を作り生活してきた。しかしながら、近年は多くの人が便利な生活を求め、森から離れた生活をしていくのでは無いだろうか。そこで、一般市民が気軽に森についての知識を深め、興味を持ってもらうきっかけとなる木育施設を提案する。今回は特に子供連や、親子で楽しめる空間を考えた。

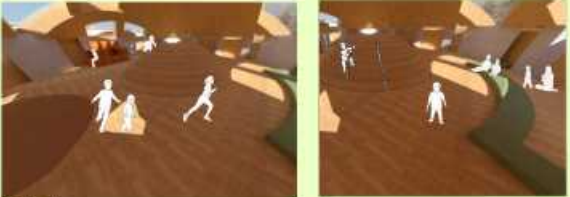
計画敷地



本計画敷地は、秋田県由利本荘市の住宅地中にある広場の一角である。付近にはスーパーマーケットや、地域の体育館があり、大きな道路に面しているため多くの人が日目にしやすい敷地である。こどもの遊び場や親子で楽しむためのツールとして利用してもらうことを期待する。この敷地であればみじかな空間として利用してもらいやすいのではないかと考える。

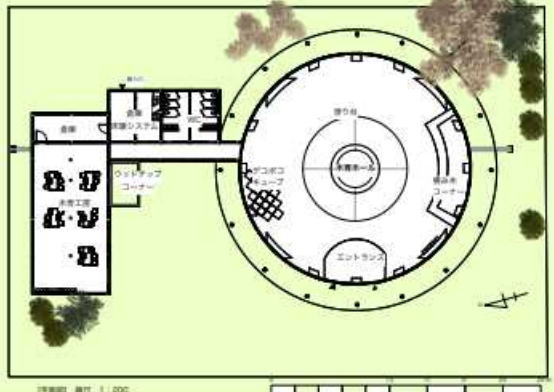
また、付近の学校と連携し高校生による保育体験の機会を作ることも期待できる。この計画地を選ぶことで由利本荘市の中心地として小さな子供だけでなく高校生、地域の人も巻き込んだ取り組みができる施設を拠点に行なわれ、地域活性化とともに木育の場として認知される思い計画地とした。

木材利用システム



木育ホール
滑り台、クライミング、積み木コーナー、でこぼこキューブ、があり運動して楽しみながら五感で木を感じる事ができる。

図面



計画図 縮尺 1:200



計画立面図 縮尺 1:200



計画断面図 縮尺 1:200



計画断面図 縮尺 1:200

木の学びの館



図1 木の学びの館
 吹き抜けの開放的な空間となっており、館内には様々な大きさの木材や木の物が用意されている。ここでは大人も子供も木材を使って好きなものを作ることも出来る。自由な形で遊ぶことで、身に染み込む楽しみや木の魅力を加わってもらいたい。



図2 展示室
 木材、森林についてを展示している。ただ見るだけの展示ではなく、触れることのできる展示だった。知能の木の大きさを再現した模型などで子供でも楽しめるよう工夫がされている。



図3 木のワークショップ
 一層上りも明るく開放感がよく見上げ易い構造であり、まるで木に囲まれた空間となっている。まっすぐに伸びた木材は多様な種類の木材を表現、ショップには木工品が並べられている。

計画敷地



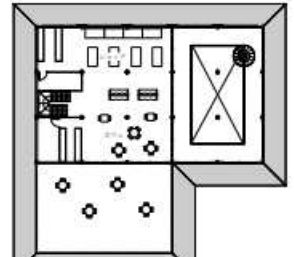
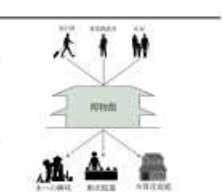
敷地は秋田市の千代田地区に位置する。中心部に近いこと、国道線や秋田県立文化創造館が近くにあることから、人通りはそれなりに多く、幅広い世代の来客が期待できるとする。

コンセプト

「体験して学習する」
 見るだけでなくかかわり体験出来るから。面白く飽きず、手に取ってかたり自分で作って見ることで面白さを発見し実際に作るものになる。
 この学びの館では、自然の生活では学ぶことのできない森林や木について体験するということを通して興味をもってもらいたい知識を身につけられるように計画した。
 これによって少しでも多くの人の森林に対する興味を引き出すことで、森林再生活動への手助けとなれれば良いと思う。

林業の現状

課題
 森林所有者の林業への関心低下
 公共施設等の木造化・木質化を促進
 木材製品の広宣・販売を促進
 ↓
 森林所有者や一般市民の林業や木への関心が必要
 ↓
解決策
 林業・木について関心を持ってもらう
 正しい知識を得られる展示の提供



木を学ぶ体験



重ね梁のプロセス



手に取って
見る・質感
を感じる

触れを感じ
る

大きさを感じ
る

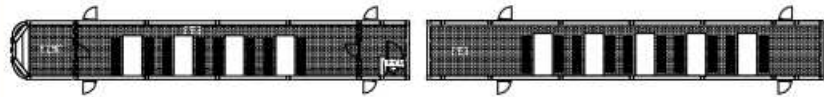
木でものをづく
りをする

木の利用方法を
実際に見る

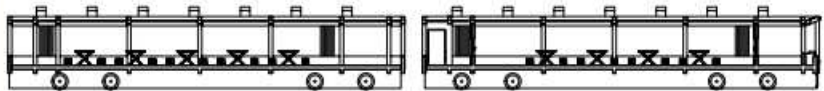
木電車を利用した秋田の魅力運び



秋田の魅力とはなんだろうか？
雄大な山々や美しい日本海、緑が輝く田舎などの美しい自然ではないだろうか。
もちろん秋田の木材も含めて、たくさんの魅力がある。
それらの魅力を一度に体験できるのがこの木電車である。
秋田の木材を多く使用したこの木電車は雄大な自然を包める大きな窓がついている。
そこから、太陽に照らされ美しく輝く日本海、反対側には大きく構える山々を楽しむことができる。
秋田の木材や景色を一度に楽しむことができるこの木の空間は、秋田の魅力を手軽に伝える大きな力となるだろう。
また、電車は動くことができる。最近になって、駅のホームや待合室の木質化が進んでいるが、それらはその場所に訪れなければ見ることができない。しかし電車は動く宣伝カーならぬ宣伝レインとして秋田全体に魅力を運ぶ。



平面図 1/100



断面図 1/100



立面図 1/100



平面図 1/100

これは将来への提案である

この電車は現段階では実現は難しいと考えている。理由としては、木電車は火災などの災害に弱いからだ。しかし近年、(塗料などにより)燃えない木材などの研究がされている。私は将来的には燃えない木材が完成され、多くの建物などに使用されると考える。
そのような時代となった時に、この木電車は実現可能となる。
またこの木電車が秋田に必要なと考えるのは、秋田の魅力がうまく伝えられていないと思うからだ。秋田にはこんなにたくさんの魅力があるのに、それを活用しきれていない。美しい景色があるのは知っているが、移動手段が発達していない。
そのような問題の解決に、この木電車は繋がって行くのではない。

共生の芽吹き

林業との繋がりを生かす場所



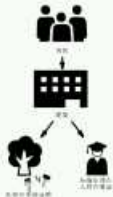
概要 秋田県に隣る本荘市には木材産地の誇りによる**両利きの産地産地による双塔型の減少**、**産業・農林化による行き場のない管理**などの課題が挙げられる。これらの課題を、市民をはじめとした様々な人が林業に関わることで解決できるような取り組みを、建築を通して提案しようとする。

地域との関わりをつくる

林業従事者が減少している現状に、企業が林業が得意とするようなことを支援することでいいということが受け入れられる提案となる。

しかしその一方で、林業に関わるきっかけが減少したため、建築者の仕事も減少。これは2019年以降に顕著に減少傾向にあることが示されている。

また企業従事者は少ないが、近隣の林業との関わりが受け入れられることが明らかになっていると思われる。このような場所が提案され、建築者が提案するのではなか。



木材の活用提案

管理のために残された木材が行き場を失っていること、林業の課題として存在している。このような木材が、企業が林業に関わるきっかけのひとつになるような取り組みを提案することができ、建築に活用しようとするのではなか。

敷地計画

秋田県立林業研究所にある『角島 木のまちの館』に隣接するよう敷地を計画する。

この場所は広さがあり、森林利用に親まされており、自然を感じながら活動を行うことができる。また、林業従事者が集まる拠点の一角に隣接することで管理やメンテナンスに便利である。

林業に関わる活動が行われる。林業従事者が集まる中で、企業から林業が得意とするようなことを支援することができる。

つまり、森林を所有しているのは個人や法人、管理が難しい場所であるので、イベント開催やボランティア活動が受け入れやすいことになるのではないかと考えられる。

五郎川に沿って建設されるので、海側にも開けていくので、海側を見ることが可能である。



仕組み

ここでは市民が先陣となり上層やベランダを活用することができ、実際に**森林の管理のためのイベント**や、管理のために成長した**両利きを利用した木工教室**などを開催し、林業の復活についての学びを深められる。実際に林業に関わることもできる場所とする。また、森林の復活のためのイベントには林業従事者も参加する**ボランティア**も募集し、林業に関する知識を深め、最終的には企業へとつながる人材育成の場に行き。



管理された木材の活用計画



両利きについて

両利きの有効活用を行うために両利きは両利きを確保する。

両利きは、中央から成長した小さな両利きを中央より大きく作り出すことができる。これにより、両利きからの管理が可能になるため、両利きの有効活用が可能になる。

- 両利きとして
 - 両利きから成長した両利きを得ることができる
 - 中央より大きく成長した両利きを得ることができる
 - 両利きから、両利きの両利きを得ることができる

計画・設計計画

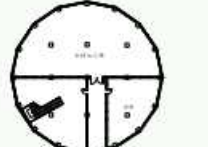
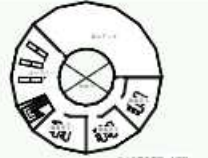
建設概要
所在地：秋田県立林業研究所 建築面積：1007.6㎡
階数：地上2階 建築高さ：11300mm
地下：鉄筋コンクリート造

地下1階部分は一部が地下にあり、正面から入る廊下の入り口は地下1階になっている。大きな材料の加工場として機能を提供可能。

地上1階部分は工場と展示スペースとなっている。また、正面から海側方向に広がるように、1階部分に広大な入り口があり、管理されている。管理の必要な場所には、木の両利きを備えておくことができる。

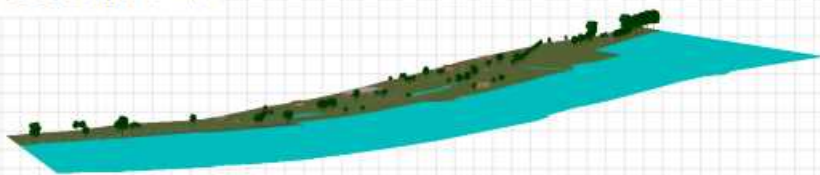
地上1階部分は展示室と作品展示のためのギャラリーがある。また、展示スペースがある。

展示室に設置しているアクセサリーは、両利きから作られて両利きを展示する。



せせら木パーク

学履番号 B23C035 氏名 棚田郁弥



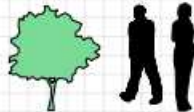
周囲木村を壊った人の集り所となるような「小さな建築」を作り、子吉川と川沿い大きな風景を楽しむようにし、由利本町市と子吉川に再び大きな繋がりを生むきっかけをもたらすと共に、木村利用の促進を図るような空間を提案する。

problem

国内の人工林の約半分がスギ人工林であり、その中で秋田県におけるスギ人工林面積は36万6000haとあって、占有面積は秋田県が日本一となっている。しかし近年では、ウッドショックの影響による木材価格の高騰や安い外国産木材の自国へ流入、国産材の供給が減少し枯れやすくなっている状況となっている。他にも少子高齢化や第3次産業業の成長によって、林業の担い手も少なくなっている。そのため、林業が低迷する事による森林の荒廃や破壊が懸念される。

solution

木材需要を高める為には、人の通る空間に小さな建築物として表現し、木村の存在が身近に感じられる事が大切である。そこで木村の特徴である「曲げに対する強さ」や「強い伝達力」を十分に生かした物として提案的に提案するだけでなく、匂いや触り心地、音など人の持つ五感で木村の魅力が伝わるようにする事で、木村に対する関心が深まり、木村に多くの人々が興味関心を覚えてもらうきっかけとする。



site

今日の由利本町市は子吉川と共に歩んできたと言っても過言ではない。古くは江戸時代まで廻り日本海側西回り航路として開かれ舟運により人や文化の交流に大きな貢献をしてきた。また、ボートの需要も高く、年夏季のボート大会が開催されるなどボート関連は子吉川の風景の一部である。しかし、最近の子吉川を渡る、橋との繋がりが弱く、川と街の距離が以前より離れているように感じた。その原因として、子吉川周辺の河川敷が都市計画が緩慢であるために繋がりがなく、近づくにくさるまでいかなかったと考ええる。今回、計画案として決定した場所は「せせら木パーク」と呼ばれているが、少数のパーゴラやベンチがあるだけで目立った利用はできていない。市街地方面からの子吉川の景色が木村に隠れ進めにくいという現状である。釣りやジョギング、犬の散歩など様々な目的で河川敷を訪れる人がいるだけに勿体無い現状となっている。

diagram



「せせら木パーク」内にある既存の木本（橋）とベンチやパーゴラ等（橋）の位置を調査した。すると、調査ともに道路沿いに分布し、道と道の空間には空白が生まれていた。また、車と同じ様式で橋を架けたりばかりで人が関係したり集まって貰いだりする事に向いてなく、光や風等の環境条件がどこにいても同じである事から、多様な体験の仕方が提供できていない。



周辺との調和のため道路沿いにある既存の橋や木本は無し、新橋の造りとなつていふ建物を探した。そして、庭の造りや空間と多様な体験の仕方が出来る空間を思い付いた場所（橋）をみつけた。また、道となつていふ部分にウッドチップを敷き詰め、緑意のある空間だけでなく人混みの音として楽しんだり、船でも大丈夫であるという事から安全面や防災面の観点からも意識のあるものとした。

建物概要① 建築面積：33.02(m²)
構造：木造



円形の木製デッキの上にアーチ状の屋根を設置し、雨風や日射を防ぎながら休憩できる。この建物は3箇所があり、アーチ状の屋根の位置で防げる日射の向き等が異なるので、多様な休憩の選択が出来る。また、デッキの上にはテーブル付きベンチを置き、以前まで無かったテーブルを使って長時間の寛ぎが可能となる。

建物概要② 建築面積：25.05(m²)
構造：木造

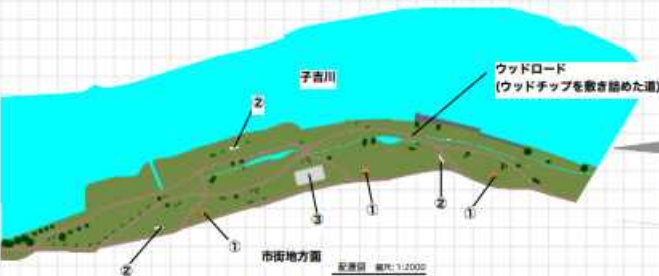


木村で出来た東屋の中に横長の腰掛けを設置し、子吉川を眺めながらの休憩が出来る。他の建物に比べて小さい空間となっていて、一人での休憩に適している。この建物も1と同様に3箇所があり、場所異なる向きが可能である。また、腰掛けに座った時の前後方向は開いていて風景を十分に楽しめるようになっていて、横方向には周りからの視線や風を遮る為の壁を作り、これはスギの有効活用を図る事で縦ログ構造によるパネルによって構成する。

建物概要③ 建築面積：471.24(m²)
構造：木造



大きな木製の円形デッキの上に屋根を架け、以前まで無かった雨風や日射等から完全に守られての休憩が出来る。この建物は他と比べて大きく高く、以前までバリアフリーステージとなつていふ場所のみに設置した。広い空間で且つ断伝導率が低い事から、快適な状態で寝る事が可能である。



配置図 縮尺：1/2000



少しの木とリラックス

Background

空間を木質化することは、その空間を利用する人にリラックス効果や子供の集中力増進の効果がある。このような学術的結果に加え、免役力のアップや良い眠りを引き出す効果などの身体面にも良い影響を及ぼすこともある。

【木で電卓やバス、】 木の本質を待つ時間。 「少しでもリラックスであるそんな空間があれば」と木質空間を求めたい人も少なくない。このように希望から、とても小さく利用人数も限られているが、そんな少しの木を対する木質空間を提案する。

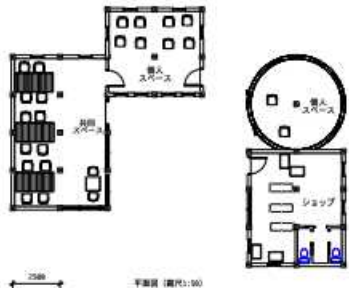
Location

秋田本荘駅前前の広い自転車スペースに隣接する。秋田本荘駅は、夕方になると電車を利用する人が多く、一般の方も利用する光景をよく目にする。電卓やバスがくるまでの少しの時間に、少し立ち寄り、少しのリラックスを本質とするようなイメージが湧いてくる。途中、水や木の音に耳を注ぐことはよくない。駅には木質の建物がないから秋田本荘市に、木を周辺に見ながら立ち寄りながら、周辺に感じられるような空間を人の行き来が多い場所に欲しいと感じ、この駅前を整えたいと考えた。

Concept

この「少しの木とリラックス」は、電卓を待つ1時間にも満たない時間に、木を感じて、少しのリラックス効果や集中力増進効果を得られるように、駅を利用する全員へ向け空間の提案である。一般の人よりは学生の方が多く待つ時間が長いように見える。そのため、空間スペースがメインの空間になっている。小さなショップを提案している。秋田県はスギや杉が多く、森林資源も広い。木質の空間の中に木材があることが当たり前になっている。駅で待つという状況の中で自分自身をリラックスさせることができる空間が多くなる秋田本荘市。秋田本荘市も、駅周辺から街へと木質空間が増えていくことが理想である。

Floor Plan



Point

木材を利用することの影響は、次のようなことが挙げられる。

- リラックス効果、集中力増進効果
- 免役力のアップやコレステロール値の低下、改善効果などの身体面効果
- 材料に合った色や質感を自由に表現でき、空間を暖かな雰囲気にできる。
- 木材の可変性であるため、環境への負荷が小さく、秋田県産の木材を使用し、秋田県内や地域経済の向上につながる。

木材利用から、環境と地域に貢献していくことで、街に木質空間を形成していく。

共同スペースのバース



電卓やバスを待つ間に、勉強したり、友達と話したりと、自由に利用してほしいスペース

ドーム屋根と個人スペースのある建物間からみたバース



駅前にある建物は、一人で静かに過ごしたい人に利用してほしいスペース。1人用の車の設置を考えている。

ショップのバース



小規模ではあるが、少しの飲食物や、地域のものなどの販賣を行うスペース。駅の施設として使うのも良い。